「何を教える会の誕生？」 2017 06 04

使徒1:1-21, ヨハネ20:19-23 牧師　安達均

天の父からの聖霊が豊かにこの礼拝堂に集った会衆の心の中に注がれますように！

ペンテコステ、聖霊降臨日、教会の誕生日、をお祝いしたい。

主の復活日から数えて50日目を迎えた。　ペンテコステとはギリシャ語で50番目という意味で、もともとはユダヤ教の過ぎ越しの祭りから50日目を五旬祭として祝っていたお祭りだった。　なので、ペンテコステという言葉には、聖霊降臨の意味は本来はなかった。

ちなみに英語では、聖霊降臨日のことをペンテコステと呼んでおり、この日のために聖霊降臨という意味の英語の言葉はない。　日本語では、この日を聖霊降臨日と呼んでいるため、私たち日本人は聖霊はこの日にはじめて降臨したかとの感覚を持ってしまう方もいるのではないかと思う。

今日の福音書からあきらかなように、聖霊はイエスが復活したその日にも、主イエスは弟子たちに聖なる霊を吹き込んでいる。　もっとさかのぼるならば、イエスがマリアのおなかの中にいる、つまり妊娠がわかったとき、マリアは洗礼者ヨハネを妊娠していたエリザベトを訪問する日がある。　ちなみにキリスト教の暦ではそれをクリスマスから約７ヶ月さかのぼった5月31日としており、先週の水曜日だった。

その時の様子はルカ福音書の１章39-56節に出ているが、エリザベトは聖霊に満たされてマリアを祝福している。　つまりイエスが生まれる前から神の霊は存在している。　さらにもっとさかのぼるなら、創世記一章二節には、神が天地を創造されたときに、「神の霊が水の面を動いていた。」とあり、天地創造のときから、聖霊はただよっていた。

なので、聖霊は、主の復活日から50日目だけに降臨したわけではない。　これは重要なことで、聖霊は時間的にも空間的にも広い範囲にわたって存在している。　そう宇宙のような広さを持っている。　そして決して人間が限定するようなことはできない存在である。　また人間は聖霊が力強く存在しているのに、その存在にすぐに対応できなかったり、無視したりしてしまうことも得てしておこってしまう。

さきほど呼んだ福音書では、主の復活日にイエスは弟子たちが霊を受け取れるようにしているのだが、弟子たちには、その意味がよくわかっていない。　そもそも弟子たちは、その三日前、イエスが十字架刑になることがわかると逃げていってしまったのだ。

三年間イエスこそ主であると思い従ってきたリーダーが死刑になるにあたって、弟子たちは無力であるどころか、「イエスのことを知らない」とまでいってしまってしまう弟子もいた。　彼らは自分たちのしたことを悔いて悩み、いったいどうしてよいのかわからなかった。

また彼ら自身も、もしユダヤ教のリーダに見つかったならば、ローマの兵士たちに報告され、すぐに十字架刑にかけられてもおかしくないと思い恐れていた。　いわば、不安で不安でしょうがなかった状況で、そのまま放置されれば、現代の言葉でいうpost traumatic syndrome disease(心的外傷後ストレス障害)になってしまっただろうし、うつ病にもなったことだろう。

そのように、自分たちをどうしようもないと思い、不安でしょうがない弟子たちの中に、イエスは現れてくださった。　そして、まず弟子たちに、「あなたがたに平和があるように」と二度もいわれている。　そこには、神の弟子たちへの慈しみ、あわれみがあふれている。

逃げていってしまった弟子たちであるにもかかわらず、その弟子たちを赦すという行為がある。その赦しは神の恵み深い愛に基づいている。　これらの一連の行為の中で、主イエスは、弟子たちをいまも弟子としてみとめ、派遣しようとされていた。そして、イエスは派遣するための聖霊を吹きかけられている。

ところが、弟子たちは、主なるイエス、神の愛、そして聖霊が働きかけていることを理解できないでいた。　聖霊の働きかけの実現には、７週間という時間とさらなる聖霊の働きかけが必要だった。　そして50日目、過ぎ越し祭で人々がエルサレムに集まっているときに、主なる神は、驚くばかりの聖霊を注がれた。

さきほど読まれた使徒言行録２章がそのときの様子を表している。　本当に起こっていたことは、とても言葉では表現しえないようなことではなかったかと思う。それゆえに、炎、舌、鳩のような比喩的な表現が使われているのだと思う。言葉での表現は難しくても、ひとつはっきりしていることがあると思う。　弟子たちは、復活日にイエスが送った派遣の霊の意味には応答できなかったが、今回は、はっきり違っていた。

そして弟子たちが、重大な行動を起こす。　それはすなわち教会の誕生だ。「教会」とは日本語では教える会と書く。　何を教える会なのかをちょっと考えてみたい。　間違い・失敗・恥ずかしい思い悩んでいた弟子たちを、主イエスが憐んで赦された。

それは恵み深い神の愛によるもの。　その神の愛を、聖霊の働きの中で「教わりそして教える会」と言えるだろう。　そのような教会が紀元後30年に、激しい聖霊降臨の中で誕生した。　主イエスの復活日には起こらなかったが、言うなれば長い生みの苦しみという期間があり、激しく聖霊が吹きまくる中で、教会は誕生した。

この赦しは神の慈しみに満ちた恵み深い愛、アガペに基づいている。　教会とは人々が集まって、その無条件の愛について学び教える集まりだ。　紀元後30年に力強い聖霊の働きがあって、誕生は実現した。　イエスの謙虚で、苦しみに満ちた十字架刑、死と復活があり、そして49日間を経て、教会は誕生した。

力強い聖霊の働きの中で、慈しみ深い神の愛に基づいて赦された弟子たちが、ついにイエスの教会の弟子たちとして稼動しはじめ現在も生き続ける存在である。

その教会は今年で1987歳になる。年寄りだと思われるかもしれないが、この地球が生まれた50億年にくらべれば、まだまだ一瞬の期間に過ぎない。　そのような若い、躍動している、教会の一部として、私たちも生きている。　聖霊の働きの中で、恵み深い神の愛を分かち合う教会の中で、私たちも生きていることを、今日、教会の誕生日を祝うなかで、しっかり覚えておきたい。

今日1987歳の誕生日を覚えるなかで、 新たに、聖霊の激励を受けて、ここに集まった一人一人が、主の弟子として、聖霊の助けを受け励まされ、恵み深き神の赦し・愛を、教える民として派遣されますように！　　　アーメン